

環境配慮活動の取り組み

原子力機構では、「環境配慮管理規程」を制定して環境配慮活動に積極的に取り組んでいます。また、五つの研究開発拠点では環境マネジメントシステムに関する国際規格（ISO14001）の認証を取得して活動しています。

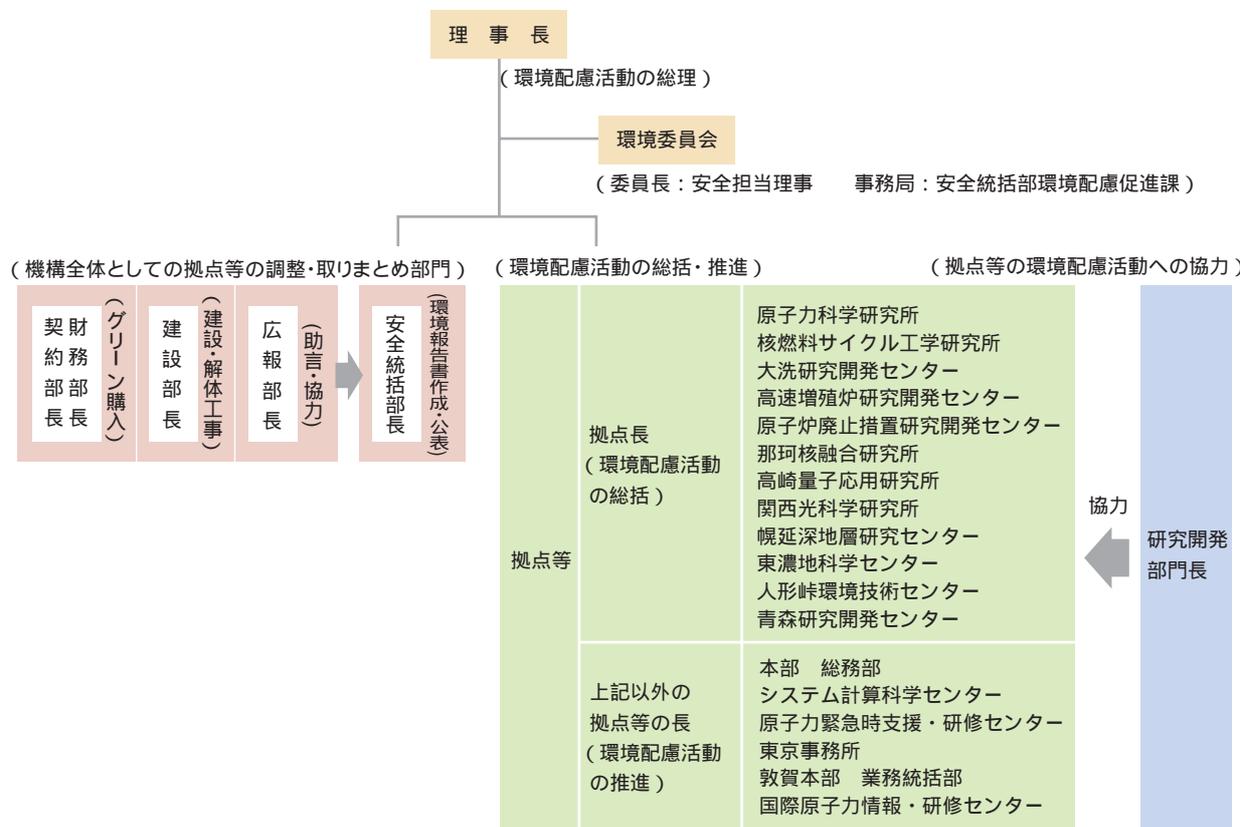
環境配慮活動

原子力機構では、組織全体で環境配慮活動に取り組むため「環境配慮管理規程」を制定するとともに、安全担当理事を委員長とする「環境委員会」を設置しています。理事長が毎年度、環境基本方針（緒言 P.4 参照）を定め、これに基づく環境目標と年度計画を立てて、計画的な環境配慮活動に取り組んでいます。

2007 年度環境目標では、「省エネルギーの推進」として①電気使用量、②化石燃料使用量、③二酸化炭素排出量について、「省資源の推進」として④水の使用量について、それぞれ 2006 年度比で 1 %以上削減の数値目標（ただし、施設の新増設及び新規の運転・操業等に必要な分は除く。）を掲げました。①、②、③及び④上水道＋工業用水について達成できました。結果については本環境報告書のそれぞれのページに示します。

環境報告書については、その作成を環境配慮活動の一環と位置付け、各拠点の担当者からなる「環境配慮活動に係る担当課長会議」及び機構本部の関係各部の代表者で構成する「環境報告書作成プロジェクトチーム」で原稿案を作成・検討し、「環境委員会」で総合的にチェックする体制とし、機構をあげて環境報告書を作成しています。

環境配慮活動体制図（2008 年 3 月末）



環境配慮活動研修会

環境関連法令の知識・理解向上を目的とした「環境配慮活動研修会」を各拠点で行っています。2007年度は外部講師を招き8拠点を対象に開催し、延べ約140名が参加しました。

環境配慮研修会の開催（2007年度）

開催拠点	開催日 (2007年)	概 要	参加人数 (人)
人 形	5月22日	・環境関連法令及びISO14001の講義	22
本 部 大 洗	5月31日	・環境配慮促進法関連の講義 ・事務部門に係る環境関連法令の講義 ・大洗の環境関連施設の見学	26
高 崎	7月26日	・環境関連法令の講義	11
サイクル研	9月28日	・サイクル研における廃棄物処理の紹介(廃棄物関連施設の見学含む) ・廃棄物関連情報の提供	25
東 京 (上野含む)	11月 1日	・環境配慮促進法関連の講義 ・事務部門における環境配慮活動の取り組みについての紹介	12
ふげん	11月26日	・ISO14001の講義	11
原科研	12月 6日	・環境関連法令の講義	34

ISO14001 の認証取得状況

原子力機構においては、5拠点において環境マネジメントシステムに関する国際規格（ISO14001）の認証を取得しており、定期的に更新が行われています。

環境に配慮したサプライチェーンマネジメント¹⁾等の状況としては、国等の機関にグリーン購入²⁾が義務づけられ、原子力機構全体でグリーン調達を進めています。これに加えて、発注時に廃棄物の低減、省エネ・省資源等、環境に配慮した機器の製作、使用の協力を受注先に依頼しています。

ISO14001 認証取得状況（2008年3月末）

拠点名	登録の主な業務内容	最新更新日	認証取得日
サイクル研	プルトニウム燃料の開発、使用済燃料の再処理技術の開発、高速炉リサイクル技術の開発、放射性廃棄物の処理・処分技術の開発など核燃料サイクル全般にわたる技術開発	2008年 2月15日	2002年 3月22日
大 洗	高速増殖炉及び関連する核燃料サイクル技術の研究開発	2006年 6月28日	2000年 6月28日
高 崎	大型照射施設や各種加速器による放射線等を利用した環境保全技術、バイオ技術、極限材料・機能材料の研究開発	—	2005年 7月13日
東 濃	地層科学研究及び関連施設の建設・維持	2005年 9月24日	2002年 9月25日
ふげん*	新型転換炉の廃止措置に係わる技術開発	2007年12月27日	1999年12月 9日
人 形	ウランの製錬、転換、濃縮の技術開発、施設・設備の解体、除染、減容化技術開発及びウラン探鉱、採鉱関連施設の維持	2006年 2月10日	2000年 2月10日

* 自己宣言事業所（2006年12月26日に移行し、2007年12月27日以降も自己宣言を継続しています。）

1) サプライチェーンマネジメント（SCM：Supply Chain Management）：商慣習の見直し、電子商取引の推進、取引単位の標準化等による企業間連携を通じて、生産から消費までの情報と物の流れを効率化し、消費者ニーズを反映した商品をスピーディーに適正な価格で提供するための仕組みのことです。

2) グリーン購入：市場に供給される財・サービスの中から環境への負荷が少ないものを優先的に購入することです。